

フランス語文法を学ぶ皆さんへ

皆さんが手にしているこの本は、現在刊行されているフランス語文法の教科書としては、おそらく、もっとも内容の充実した一冊です。自習書としても使えるほど詳しい解説と用例が載っており、実力を養成する選りすぐりの練習問題が各課に付随しています。また、豊富な内容を効率よく学習できるような配慮が随所でなされています。見やすいレイアウトと図表、日本語訳のついた例文、さらには注記やポイント解説のコラムなどが、明確で合理的な理解を助け、知識を深め広げてくれます。

フランス語文法をマスターするために学ぶべき事柄は少なくありません。それらの事柄のどれをどのような順番で学ぶかによって、学習効果が大きく左右されます。本書では、フランス語の発音や綴り字から始めて、基礎から中級レベルのフランス語学習に必要な文法事項を26の課で段階的に学んでいきます。それぞれの課に含まれている文法事項は互いに関連性が強く、ひとつのまとまりをなして、いわば、フランス語の文法体系における小体系を構成しています。段階が進むにつれて、それらが系統立って有機的に結合し、より大きな文法体系が形成されていきます。この教科書は断片的でばらばらな文法知識を提供するのではなく、一貫した「フランス語の論理」によって構築される「フランス語の文法体系」の全体像を提示することを目指しているのです。

この教科書を使って十分な学習効果を得るために、少し細かくなりますが、勉強の仕方について次のことを守ってください。

フランス語の勉強は授業だけで済んでしまうものではありません。自宅での丁寧な学習、とりわけ**予習が不可欠**です。少なくとも授業時間と同じだけの時間を授業の準備にかけてください。予習では、解説を読み例文を参照して、学習事項を把握します。耳と口の訓練も大事です。録音されたネイティブスピーカーの発音をよく聞いて繰り返します。録音された例文を覚えれば文法事項と自然なフランス語表現を同時に会得できるので、**すべてを暗唱できるようになるまで練習しましょう**。

次に、練習問題に取り組みます。文法知識を確認し定着させるために**練習問題は非常に重要です**。その課の要点が網羅されている多様な練習問題をやり遂げるにはかなりの根気が要りますが、そこを乗り越えてこそ実力が備わるのです。辞書をこまめに引いて語句の意味や用法を調べ、文法の要点を確かめながら、問題の答えを見つけましょう。解答は、教科書に書き入れるのではなく、**フランス語文の全文をノートに書いてください**。書き終えたらそれを声に出して読みます。ノートには語句や文の意味だけでなく注意点も記入するなど、各自が自分に役立つ学習の手引きを作りましょう。入念に予習をして授業に臨めば、授業時間内に学習内容をしっかり身につけることができます。

文法の確固とした基盤がいかに大切で有用であるかは、フランス語を学び続けるにつれて実感されることでしょう。学習途上では確かに苦勞も多いですが、そのことをネガティブにとらえずに、言葉の仕組みが少しずつ解き明かされる過程での知的発見を楽しみつつ、フランス語力が確実に高まってゆく充実感、達成感を味わってもらいたいと願っています。皆さんの熱意を信じ努力を期待しています。

著者

目 次

音と綴り	… 2	Leçon 7 直説法現在の活用－1	… 34
1. 母音	… 2	§22 動詞活用の構造とパターン	… 34
2. 子音	… 2	§23 1語幹型活用の動詞	… 35
3. アルファベ	… 3	§24 2語幹単複型活用の動詞	… 35
4. 綴り字記号	… 3	Leçon 8 直説法現在の活用－2	… 39
5. 綴り字の読み方	… 4	§25 2語幹強弱型活用の動詞	… 39
6. 連続する語と語のあいだで起こる現象	… 8	§26 3語幹型活用の動詞	… 40
7. アクセントとリズムグループ	… 8	Leçon 9 疑問詞	… 43
8. イントネーション	… 9	§27 疑問形容詞	… 43
9. 母音の長さ	… 9	§28 疑問代名詞(1)	… 43
10. 句読記号	… 9	§29 疑問副詞	… 45
Leçon 1 名詞と冠詞	… 10	Leçon 10 命令法, 直説法の時制－1	… 47
§1 名詞	… 10	§30 命令法	… 47
§2 冠詞	… 11	§31 直説法現在形の用法	… 48
§3 3つの基本表現	… 12	§32 進行中の行為, 近接未来, 近接過去	… 48
Leçon 2 動詞 être と avoir	… 14	Leçon 11 直説法の時制－2	… 50
§4 主語人称代名詞	… 14	§33 複合過去	… 50
§5 動詞 être	… 15	Leçon 12 直説法の時制－3	… 53
§6 主語の属詞	… 15	§34 半過去	… 53
§7 動詞 avoir	… 16	§35 大過去	… 55
Leçon 3 -er動詞	… 18	Leçon 13 直説法の時制－4	… 57
§8 -er動詞の活用	… 18	§36 単純未来	… 57
§9 否定文の作り方	… 19	§37 前未来	… 59
§10 否定の冠詞	… 19	Leçon 14 代名詞－1	… 61
§11 主語代名詞 on	… 20	§38 目的語人称代名詞	… 61
§12 前置詞 à, de と定冠詞の縮約	… 20	§39 中性代名詞 en (1)	… 62
Leçon 4 形容詞	… 22	§40 助動詞 avoir を用いる場合の過去分詞 の一致	… 62
§13 品質形容詞	… 22	§41 目的語人称代名詞や en を併用する場 合の語順	… 63
§14 指示形容詞	… 23	Leçon 15 代名詞－2	… 65
§15 所有形容詞	… 24	§42 強勢形人称代名詞	… 65
Leçon 5 疑問文と否定の表現	… 26	§43 不定代名詞	… 66
§16 疑問文の作り方	… 26	§44 関係代名詞(1)	… 67
§17 疑問文に対する答え方	… 27		
§18 ささまざまな否定表現	… 27		
Leçon 6 数量を示す語句	… 30		
§19 数詞	… 30		
§20 数量形容詞	… 31		
§21 数量表現	… 31		

目次

Leçon 16 代名動詞と受動態	… 69	Leçon 25 時制の一致と話法	… 100
§45 代名動詞	… 69	§66 時制の一致	… 100
§46 能動態と受動態	… 71	§67 直接話法と間接話法	… 101
		§68 話法の転換	… 101
Leçon 17 さまざまな構文-1	… 73	Leçon 26 書き言葉	… 105
§47 非人称構文	… 73	§69 分詞構文	… 105
§48 比較構文	… 74	§70 直説法単純過去	… 106
		§71 直説法前過去	… 106
Leçon 18 さまざまな構文-2	… 76	§72 接続法半過去, 接続法大過去	… 107
§49 遊離構文	… 76	§73 条件法過去第2形	… 107
§50 強調構文	… 76		
§51 感嘆文	… 76	Appendice	… 110
§52 不定詞構文	… 77	I 基本文型	… 110
Leçon 19 現在分詞とジェロンディフ	… 79	II 発音	… 111
§53 現在分詞	… 79	1. 音節	… 111
§54 ジェロンディフ	… 80	2. /ə/ の脱落	… 112
		3. アンシェヌマン	… 112
Leçon 20 代名詞-3	… 82	4. リエゾン	… 113
§55 中性代名詞 y, en (2)	… 82	5. エリジヨン	… 113
§56 中性代名詞 le	… 83	6. 有音のh	… 113
Leçon 21 代名詞-4	… 85	III 名詞と形容詞の変化	… 114
§57 指示代名詞	… 85	1. 名詞の複数形	… 114
§58 所有代名詞	… 87	2. 形容詞の複数形	… 114
§59 疑問代名詞 (2)	… 87	3. 形容詞の女性形	… 115
Leçon 22 代名詞-5	… 89	4. 名詞の女性形	… 115
§60 関係代名詞 (2), 関係副詞	… 89	IV 数詞	… 116
Leçon 23 条件法	… 92	1. 基数詞	… 116
§61 条件法現在, 条件法過去	… 92	2. 序数詞	… 118
§62 条件法の用法	… 92	3. 数詞の用法	… 118
§63 条件節・帰結節を用いた表現	… 94	4. 概数	… 119
		5. 数に関する表現	… 119
Leçon 24 接続法	… 96	V 動詞活用の仕組み	… 120
§64 接続法現在, 接続法過去	… 96		
§65 接続法の用法	… 97	動詞活用表	… 121

音声について

本書の音声はHP (<http://www.sobi-shuppansha.com>) からダウンロードできます。000のような数字の入った印の箇所が録音されており、数字は頭出し番号です。(◆の注の録音箇所はヘッドホーンマーク🎧だけで番号はついていません) 声の出演は Léna GIUNTAさんと Sylvain DETEYさんです。

音と綴り *Sons et orthographe*

1. 母音 *Voyelles* 002

(1) 口腔母音 *Voyelles orales*

呼気が口腔内を通過して発音されるふつうの母音を、鼻母音と区別するために、口腔母音と呼ぶ。口腔母音の音色は主として次の3点で決まる。

- 唇の形：唇を左右に引くか、丸く突き出すか。
- 舌の盛り上がり：舌のどの部分を盛り上げるか。
- 口の開き：口をどの程度開くか。

唇の形		左右に引く	丸く突き出す
舌の盛り上がり		前方	後方
口の開き	狭	/i/ ¹⁾ /y/ ⁹⁾	/u/ ⁵⁾
	↑	/e/ ²⁾ /ø/ ¹⁰⁾ /ə/ ¹²⁾	/o/ ⁶⁾
	↓	/ɛ/ ³⁾ /œ/ ¹¹⁾	/ɔ/ ⁷⁾
広	/a/ ⁴⁾ /ɑ/ ⁸⁾		

(数字は録音の順序を示している)

- ◆ フランス語の母音は英語や日本語より「はっきり」している。途中で音色の変わる二重母音などはない。
- ◆ 左の図で□で囲んだ母音は口の開きの度合いが異なるが、初歩の段階では同じ音で発音しても差しつかえない。

(2) 鼻母音 *Voyelles nasales* 003

発音の際に鼻腔の共鳴を伴う母音を鼻母音といい、発音記号の上に～をつけて表わす。発音のコツとしては、例えば「ア」を発音してから、口の開きと舌を位置を変えずに、すばやく「アン」を発音する。

/ɛ/ → /ɛ̃/	/œ/ → /œ̃/	/ɑ/ → /ɑ̃/	/o/ → /ɔ̃/
------------	------------	------------	------------

◆ /ɔ̃/は/o/のように口をすぼめる。

◆ /œ̃/ と /ɛ̃/ を区別せず一律に /ɛ̃/ と発音するのが現在では一般的である。したがって、発音表記で /œ̃/ となっても /ɛ̃/ で発音してかまわない。

(3) 半母音 *Semi-voyelles* 004

音色は母音的でありながら、単独では音節を作ることができないものを半母音(または半子音)という。フランス語には、もっとも狭い母音 /i/, /y/, /u/ に対応する3つの半母音があり、それぞれ /j/, /ɥ/, /w/ の記号で表わす。/j/, /w/ は英語の *yes* や *west* の最初の音(英語では子音として扱われる)とほぼ同じ。

/i/ → /j/	/y/ → /ɥ/	/u/ → /w/	(*録音では、/i-a/ → /ja/, /y-a/ → /ɥa/, /u-a/ → /wa/ と発音している)
-----------	-----------	-----------	--

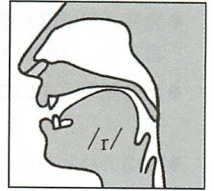
2. 子音 *Consonnes* 005

子音は調音に関する次のような違いによって分類することができる。①発音するときの呼気の通路が口か鼻か、②通路が開じるか狭まるか、③通路のどの部位が開じるか狭まるか。閉鎖音と摩擦音はさらに無声音(声帯が振動しない)と有声音(声帯が振動する)に分かれる。フランス語の子音は英語より種類が少なく、/h/, /ts/, /dz/, /tʃ/, /dʒ/, /θ/, /ð/ などの子音はない。

閉鎖音	無声	/p/ /t/ /k/	摩擦音	無声	/f/ /s/ /ʃ/
	有聲	/b/ /d/ /g/		有聲	/v/ /z/ /ʒ/
鼻音		/m/ /n/ /ɲ/	流音		/l/ /r/

◆ 英語からの借用語では /ts/, /dz/, /tʃ/, /dʒ/, /ŋ/ など発音することもある。

- ◆ 全般的に、子音は英語や日本語に比べ、調音の部位が前寄りである。たとえば、/t/, /d/, /n/, /l/ は、英語ではふつう舌の先を上歯茎に当てて発音するが、フランス語では、舌先の位置がより前方になり、上の前歯の裏に当てて発音する。/ʃ/, /ʒ/ は、舌先を上に向け、唇を前に突き出して発音する。英語の鼻音の /ŋ/ は舌の奥を口蓋の奥に押しつけるが、フランス語の /ɲ/ は舌の背を口蓋の中ほどに押しつけて発音する（音色としては「ニャ、ニュ、ニョ」の最初の音に近い）。
- ◆ /r/ は、現用の標準的なフランス語では、舌先ではなく舌の後ろのほうを動かして発音する。要領としては、舌の後部を上あご（=軟口蓋）に近づけながら、「ガ」を柔らかく出すようにするとよい。



3. アルファベ Alphabet (006)

A a /a/	B b /be/	C c /se/	D d /de/	E e /ə/	F f /ef/	G g /ʒe/	H h /aʃ/	I i /i/
J j /ʒi/	K k /ka/	L l /el/	M m /em/	N n /en/	O o /o/	P p /pe/	Q q /ky/	R r /ɛ:r/
S s /es/	T t /te/	U u /y/	V v /ve/	W w /du-blə-ve/	X x /iks/	Y y /i-grek/	Z z /zed/	

- ◆ w の名称は「二重の v (double v)」, y の名称は「ギリシャ語の i (i grec)」という意味。
- ◆ 単語の綴りには、o と e が合体した文字の œ も用いられる。

筆記体 *A a B b C c D d E e F f G g H h I i J j K k L l M m N n O o P p Q q R r S s T t U u V v W w X x Y y Z z*

- ◆ 上記の筆記体は習字の手本のようなもので、実際は、かなり個性的な書き方をする人が多い。
- ◆ 大文字は英語式に書いてもよいが、T の最後は必ず右に向けること。英語式に左向きにはねると I と間違われる。また、小文字の p, q の書き方も英語とやや異なる。

4. 綴り字記号 Signes orthographiques (007)

綴り字記号はアルファベの綴りを補う補助記号である。綴り字記号は語の綴りの一部なので、原則として、省略することはできない。

記号	名称	例
´	アクセント・テギュ	accent aigu é
`	アクセント・グラーフ	accent grave à, è, ù
^	アクセント・シルコンフレクス	accent circonflexe â, ê, î, ô, û
¨	トレマ	tréma ë, ï, ü
¸	セディーユ	cédille ç
'	アポストロフ [アポストロフィー]	apostrophe
-	トレ・デュニオン [ハイフン]	trait d'union

- ◆ 上の最初の3つの記号をアクセント（またはアクセント記号）という。アクセントとトレマは母音字の上につくが、どの母音字にもつくわけではない（たとえば、アクセント・テギュは e の上にしかつかない）。
- ◆ アクセントのつく文字を大文字で書く場合は、アクセントを省略してもよいことになっている。もちろん、つけてもかまわないので、綴り字をしっかりと覚えるためにアクセントを省略せずに書くといいたい。

5. 綴り字の読み方 008

フランス語は綴り字の読み方に規則性がある。綴り字の読み方の原則を覚えれば、いちいち辞書で発音を調べる手間が省け、意味が分からないとしても、とりあえず読むことはできる。これから綴り字の読み方をかなり詳しく見ていくが、その前に単語を読む上での基本的な注意点をあげておく。

- 発音表記には音節の切れ目を - で示してある。ひとつの音節を1拍に数えて、それぞれの音節をはっきりと同じ強さで発音する。フランス語では単語の最後の音節にアクセントがあるので、最後の音節は(音程は低くても)より強く発音する。
- 長音記号(:)のついた母音は長く発音するが、音色は短母音と同じである。二重母音にならないように(たとえば /e:/ を /ei/、/o:/ を /ou/ と発音しないように)注意しなさい。
- 単語の終わりの e は無音であって、「エ」とは読まない。
- 単語の終わりの子音字は読まないのがふつうであるが、例外的な場合もあり、とりわけ c /k/, f /f/, l /l/, r /r/ は読むことが多いので注意するように(ちなみに、それらは英語の *careful* に含まれる子音字)。

(1) 口腔母音を表わす綴り字

母音字を単独で読む場合と、いくつかの母音字をまとめて読む場合とがある。前者を**単母音字**、後者を**複母音字**という。単母音字も複母音字も、原則として、読み方は1つしかない(音色の類似した /a/ と /ɑ/, /e/ と /ɛ/, /o/ と /ɔ/, /ø/ と /œ/ などは区別しなくてもよい)。

単母音字はほぼ「ローマ字式」で読むが、u は /u/ ではなく /y/ なので注意。また、アクセントのつかない e は、大別して2つの読み方がある。e 以外の単母音字および複母音字はアクセントがあってもなくても読み方は同じ(アクセントは、多くの場合、同じ綴りの単語を区別するためについている)。

綴り字	音	例	注
a à â	/a/ /ɑ/	sac /sak/ バッグ là /la/ そこ gâteau /ga-to/ ケーキ	
e é è ê ai aî ei	/e/ /ɛ/	nez /ne/ 鼻 chef /ʃef/ (集団・組織の)長 merci /mer-si/ ありがとう bébé /be-be/ 赤ん坊 père /pe:r/ 父 tête /tet/ 頭 maison /me-zɔ̃/ 家 naître /netr/ 生まれる beige /be:ʒ/ ベージュ色の	* e を /e/, /ɛ/ と読むのは、〈e+単語の最後の子音字〉または〈e+2つ以上の子音字〉の場合。(詳しくは巻末111ページの「発音」を参照) * 例外(eを/a/と読む): femme /fam/ 女 * aî は/a-i/: naïf /na-if/ お人よしの(トレマのついた母音字は直前の母音字と別々に読む)
e	/ə/	vie /vi/ 生活 rose /ro:z/ バラ petit /pə-ti/ 小さい	* 単語の最後の e は無音。 * 〈e+1つの子音字+母音字〉の e は一般に /ə/. ただし、ふつうの速さの発音ではしばしば無音になる。
i î y	/i/	midi /mi-di/ 正午 île /il/ 島 stylo /sti-lo/ ペン	* y を /i/ と読むのは、〈子音字+y+子音字〉の場合
o ô au eau	/o/ /ɔ/	moto /mɔ-to/ オートバイ hôtel /o-tel/ ホテル chaud /ʃo/ 熱い, 暑い beau /bo/ 美しい	* o は一般に /ɔ/だが、語の最後では狭い /o/. * ô, au, eau の綴り字は一般に /o/.

u û	/y/	musée /my-ze/ 美術館 sûr /sy:r/ 確かな	
ou où ôû	/u/	rouge /ru:ʒ/ 赤い où /u/ どこ goût /gu/ 味, 好み	
eu œu	/ø//œ/	deux /dø/ 2 jeune /ʒœn/ 若い sœur /sœ:r/ 姉, 妹	*一般に、語の最後で、後に子音の発音がない場合は /ø/, それ以外では /œ/.

(2) 鼻母音を表わす綴り字 009

〈母音字+nまたはm〉は一般に鼻母音で発音する。nとmのどちらの綴りも発音は同じ。原則として、b, pの前でmと綴り、それ以外ではnと綴るが、下記の *faim*, *Reims*, *nom*, *parfum* など少数の例外がある。

綴り字	音	例	注
an am en em	/ã/	chanter /ʃã-te/ 歌う lampe /lã:p/ 電灯 encore /ã-ko:r/ まだ temps /tã/ 時; 天候	* 3人称複数語尾の -ent は無音： ils chantent /il-ʃã:t/ 彼らは歌う * 例外 (/ɛ/と発音する)： examen /eg-za-mɛ/ 試験 agenda /a-ʒɛ-da/ 手帳
in im yn ym ain aim ein eim	/ɛ̃/	vin /vɛ̃/ ワイン simple /sɛ̃:pl/ 単純な syndicat /sɛ̃-di-ka/ 組合 sympathique /sɛ̃-pa-tik/ 感じのいい pain /pɛ̃/ パン faim /fɛ̃/ 空腹 peintre /pɛ̃:tr/ 画家 Reims /rɛ̃:s/ ランス〔都市〕	* 英語からの借用語での ing は /iŋ/: parking /par-kij/ 駐車場
on om	/ɔ̃/	non /nɔ̃/ いいえ nom /nɔ̃/ 名前	* 例外 (/ə/と読む)： monsieur /mɔ̃-sjø/ …氏
un um	/œ̃/	lundi /lœ̃-di/ 月曜日 parfum /par-fœ̃/ 香水	* /œ̃/の代わりに /ɛ̃/と発音してもよい。 * ラテン語由来の語の末尾の um は /om/: album /al-bom/ アルバム
ien	/jɛ̃/	bien /bjɛ̃/ よく	* 語末の ience は /jã:s/: patience /pa-sjã:s/ 忍耐, science /sjã:s/ 科学
oyen	/wa-jɛ̃/	moyen /mwa-jɛ̃/ 中くらいの	
éen	/e-ɛ̃/	lycéen /li-se-ɛ̃/ 高校生	
oin	/wɛ̃/	coin /kwɛ̃/ 角, 隅	

♫ ◆ n, m の次に母音字がくるとき、および n, m が連続するときは鼻母音にならない：

animal /a-ni-mal/ 動物, *lune* /lyn/ 月, *lycéenne* /li-se-en/ 女子高校生, *grammaire* /gra-me:r/ 文法

(3) 半母音を表わす綴り字 010

i, y, u, ou は一般に母音の /i/, /y/, /u/ になるが、直後に他の母音が続く場合は、/i/, /y/, /u/ をその母音とつなげて発音するので、自然に半母音になる。ほかに、y や il を半母音の /j/ で読むことがある。

綴り字	音	例	注
i y u ou } + 母音	/j/ /ɥ/ /w/	piano /pjɑ-no/ ピアノ yeux /jø/ 目 nuit /nuʔi/ 夜 oui /wi/ はい	
oi oî oe oê	/wa/	chinois /ʃi-nwa/ 中国の boîte /bwat/ 箱 moelleux /mwa-lø/ 柔らかな poêle /pwal/ フライパン	*œ と oe は発音が異なるので注意。 *oê は /ɔ-ε/ : Noël /nɔ-el/ クリスマス (トレマのついた母音字は直前の母音字と別々に読む)
ay oy uy } + 母音	/ε-j/ /wa-j/ /ɥi-j/	crayon /kre-jɔ̃/ 鉛筆 voyage /vwa-ja:ʒ/ 旅行 essuyer /e-sɥi-je/ 拭く	*母音字の後の y は、y を ii に置き換えた と想定して読む： crayon = craiion (crai /kre/ + ion /jɔ̃/)
母音 + { il ill	/j/	travail /tra-vaj/ 仕事 bouteille /bu-tej/ 瓶 feuille /føej/ 葉	
子音 + ill	/ij/	famille /fa-mij/ 家族 billet /bi-je/ 切符	*<子音字+il> は /il/ または /i/ : familial /fa-mi-lje/ 親しい, outil /u-ti/ 道具 *例外 : ville /vil/ 都市, mille /mil/ 千

(4) 子音を表わす綴り字 011

フランス語の子音字の多くは1つの読み方しかない。同じ子音字が2つ重なった**重子音字**は原則として単子音字と同じ発音になる。2つの読み方をする場合は、読み分けを決める規則がある。

単子音字と重子音字のほかに、異なった2つの子音字が組み合わせさせた**複子音字**(= ch, gn, ph, rh, th)がある。ge, gu, qu などまとめて1つの子音として読む。

綴り字	音	例	注
b	/b/	bon /bɔ̃/ よい	
	/p/ (s, c, tの前で)	absent /ap-sɑ̃/ 不在の	
bb	/b/	abbé /a-be/ 神父	
c	/s/ (e, i, yの前で)	cinéma /si-ne-ma/ 映画	
	/k/	école /e-kɔl/ 学校	
ç	/s/	leçon /lə-sɔ̃/ 授業 ; (教科書の) 課	
cc	/ks/ (e, i, yの前で)	accident /ak-si-dɑ̃/ 事故	
	/k/	accord /a-kɔ:r/ 一致	
ch	/ʃ/	chat /ʃa/ 猫	
	/k/ (多くは子音字の前で)	technique /tek-nik/ 技術の	

d	dd	/d/	date /dat/ 日付 addition /a-di-sjō/ 勘定(書)	
f	ff	/f/	froid /frwa/ 冷たい, 寒い chiffre /ʃifr/ 数字	
g		/ʒ/ (e, i, y の前で)	argent /ar-ʒã/ お金	
		/g/	église /e-gli:z/ 教会	
	ge	/ʒ/ (a, o, u の前で)	pigeon /pi-ʒō/ 鳩	
	gu	/g/ (e, i, y の前で)	guide /gid/ ガイド	
	gn	/ɲ/	campagne /kã-paɲ/ 田舎	
h		/ /	habiter /a-bi-te/ 住む	
j		/ʒ/	jour /ʒu:r/ 日	
k		/k/	kilo /ki-lo/ キロ	*主として外来語で用いる.
l	ll	/l/	lait /le/ ミルク	*例外(lを読まない): fil /fis/ 息子
			aller /a-le/ 行く	
m	mm	/m/	main /mẽ/ 手	*例外(mを読まない): automne /o-ton/ 秋
			sommeil /so-mej/ 眠り	
n	nn	/n/	nouveau /nu-vo/ 新しい donner /do-ne/ 与える	
p	pp	/p/	parler /par-le/ 話す	*例外(pを読まない): sept /set/ 7 compter /kō-te/ 数える
			apporter /a-por-te/ 持ってくる	
	ph	/f/	photo /fo-to/ 写真	
q	qu	/k/	cinq /sẽ:k/ 5	*qは若干の語の語末でだけ、一般にはquと綴る.
			musique /my-zik/ 音楽	
r	rr	/r/	rue /ry/ 通り	
			marron /ma-rō/ 栗	
s		/z/ (母音字の間で)	chaise /ʃe:z/ 椅子	
		/s/	chanson /ʃã-sō/ 歌	
	ss	/s/	dessert /de-se:r/ デザート	
	sc	/s/ (e, i, y の前で)	piscine /pi-sin/ プール	
		/sk/	escalier /es-ka-lje/ 階段	
t		/t/	très /tre/ とても	
		/s/ (-tionなどで)	station /sta-sjō/ (地下鉄の) 駅	
	tt	/t/	attendre /a-tã:dr/ 待つ	
	th	/t/	thé /te/ 茶	
v		/v/	vite /vit/ 速く	
w		/w/	week-end /wi-kend/ 週末	*主として外来語で用いる.
		/v/	wagon /va-gō/ 車両	
x		/gz/ (語頭の〈ex+母音〉で)	exercice /eg-zer-sis/ 練習	
		/ks/	taxi /tak-si/ タクシー	
z		/z/	zéro /ze-ro/ ゼロ	

6. 連続する語と語のあいだで起こる現象 ①12

単語の個々の発音がわかるだけでは語群や文を正しく発音できない。次に見るような、単語間で生じる現象があるからである。こうした現象は、フランス語における〈子音+母音〉を単位として発音しようとする傾向と、〈母音+母音〉の連続を避けようとする傾向によって引き起こされるものである。

(*アンシェヌマン、リエゾン、エリジヨンの詳細については巻末の「発音」の112ページと113ページを参照)

アンシェヌマン *Enchaînement*

単語の最後の子音を次の単語の最初の母音につなげて発音する現象。

une /yn/ + école /e-kol/ → une école /y-ne-kol/ ある学校

- * 冠詞と名詞のような緊密な関連のある語の間では必ずアンシェヌマンをするが、関連が弱い語の間では話すスピードによって異なる。
- * 本書の第9課までの用例には、必ずアンシェヌマンをする箇所を \frown で示し、アンシェヌマンをしないこともあるがふつうのスピードで話すときはアンシェヌマンをするのが自然な箇所を \frown で示してある。

リエゾン *Liaison*

単語の最後のふつうは読まない子音字を読み、次の単語の最初の母音につなげて発音する現象。

des /de/ + écoles /e-kol/ → des écoles /de-ze-kol/ いくつかの学校

- * リエゾンをするときは、s, x, z の綴り字は /z/, d の綴り字は /t/ と発音する。その他の子音字は綴り字の読み方の原則どおり。
- * 必ずリエゾンをする場合やリエゾンをしてはならない場合がある。詳細については巻末113ページの「リエゾン」を参照。
- * 本書の第14課までの用例には、必ずリエゾンをする箇所を \smile で示し、リエゾンをしない注意すべき箇所を \uparrow で示してある。

エリジヨン *Élision*

単語の最後の母音字を省略してアポストロフを書く表記上の現象。残った子音字は次の単語の最初の母音につなげて発音する。

la /la/ + école /e-kol/ → l'école /le-kol/ その学校

- * エリジヨンによってアポストロフの入る箇所は切り離して書く：○ l'école × l'école
- * エリジヨンをする語は、冠詞や代名詞などの10数語だけであり、そのほとんどを文法学習の早い段階で学ぶ。

7. アクセントとリズムグループ *Accent tonique et groupe rythmique*

フランス語のアクセントは強弱のアクセントである。つまり、アクセントのある音節は他の音節よりも強く(その結果やや長めに)発音される。

アクセントの位置は一定しており、常に語や語群の最終音節にある。すなわち、単語を単独で読むときはその最終音節にアクセントをおくが、文中ではひとつひとつの単語のアクセントはなくなり、意味・構文上のまとまりをなす語群(多くは名詞あるいは動詞を中心とした語群)の最後の音節だけがアクセントをもつ。最終音節にアクセントをもつこうした語群をリズムグループという。音楽にたとえれば、リズムグループは小節に相当する。

リズムグループ内の各音節は等間隔の弱拍で、最終音節だけが強拍となり、[弱・強]、[弱・弱・強]、[弱・弱・弱・強]のようなリズムを刻む。ただし弱拍も英語などに比べればかなり強く、強弱の差が少ないので、日本語(の仮名)をはっきりと発音するような感じに近い。

8. イントネーション *Intonation* 013

文のイントネーションは比較的平板である。一般には、リズムグループ内の弱拍の音程はほぼ一定しており、最終音節の強拍でのみ音程が変化する。平叙文のイントネーションは、文中のリズムグループの終わりで上昇し、文末のリズムグループの終わりで下降する。いくつものリズムグループを含む文では、文の前半部分の最終音節で音程が最も高くなる。

例：（私はプロヴァンスの小さな町で休暇を過ごした。）

J'ai passé mes vacances dans une petite ville en Provence.

イントネーション → → ↗ → → ↗ → → → → ↗ → → ↘
 リズム . . ● . . ● ● . . ●

9. 母音の長さ *Durée des voyelles* 014

フランス語では、日本語の「鳥」/tori/ と「通り」/to:ri/ のように母音の長さによって語の意味の違いが起こることはない。また、英語の *sit* /sit/ と *seat* /si:t/ のように短母音と長母音で音色が異なることもない。フランス語の母音の長さの違いは、単語に固有なものではなく、音声条件（アクセントの有無、母音の種類、後続子音の有無と種類など）によって、いわば生理的な現象として自然に生じるものである。

- (1) アクセントのない母音は常に短い。
- (2) アクセントをもつ母音は、次の場合に特に長くなる。

(a) /v/, /z/, /ʒ/, /r/, /vr/ の前で (母音はどれでもよい)

élève /e-le:v/ 生徒 église /e-gli:z/ 教会 courage /ku-ra:ʒ/ 勇気 fleur /flœ:r/ 花 livre /li:vr/ 本

(b) 鼻母音および /ɑ/, /o/, /ø/ の後で子音を発音するとき (子音はどれでもよい)

dimanche /di-mɑ̃:f/ 日曜日 monde /mɔ̃:d/ 世界 épaule /e-po:l/ 肩

したがって、語形変化や、位置の違いなどによって、同じ語の同じ母音が長くなったり短くなったりすることがある。

un Français /œ-frã-se/ フランス人男性 — une Française /yn-frã-se:z/ フランス人女性

je chante /ʒə-ʃɑ̃:t/ 私は歌う — nous chantons /nu-ʃɑ̃-tɔ̃/ 私たちは歌う

la dernière année /la-der-nje-ra-ne/ 最後の年 — l'année dernière /la-ne-der-nje:r/ 去年

10. 句読記号 *Signes de ponctuation* 015

フランス語の文で用いる句読記号は、引用符以外は、ほぼ英語と同じである。

.	終止符, ポワン [ピリオド]	point (final)
?	疑問符	point d'interrogation
!	感嘆符	point d'exclamation
...	中断符	points de suspension
,	ヴィルギュル [コンマ]	virgule
;	ポワン・ヴィルギュル [セミコロン]	point-virgule
:	ドゥポワン [コロンの]	deux-points
« »	引用符, ギユメ	guillemets
()	丸かっこ	parenthèses
[]	角かっこ	crochets
—	ティレ [ダツシュ]	tiret

Leçon 1 名詞と冠詞

フランス語文法では、**名詞**のひとつひとつが**男性か女性**かに決められている。文の中で、名詞は**単数**あるいは**複数**のいずれかの形で用いられ、原則として**冠詞**がつく。冠詞と名詞は密接に結びついており、アンシェヌマン・リエゾン・エリジヨンなどの現象が起こる。

§1 名詞 016

名詞の性 — 男性名詞 (*nom masculin*) / 女性名詞 (*nom féminin*)

人間および動物を表わす名詞の**文法上の性**(*genre*)は、一般に、**自然の性**(*sexe*)に一致する。事物・概念などを表わす名詞については、文法の決まり事として男性か女性のいずれかに分類されている。

	人・動物		無生物(事物・概念)など	
男性名詞の例	garçon	男の子	arbre	木
	père	父	vin	ワイン
	étudiant	男子学生	courage	勇気
	bœuf	雄牛	Japon	日本
女性名詞の例	fille	女の子	fleur	花
	mère	母	bière	ビール
	étudiante	女子学生	patience	忍耐
	vache	雌牛	France	フランス

◆ 辞書では、男性名詞は 男 (あるいは *n.m.*)、女性名詞は 女 (あるいは *n.f.*) と示されている。

◆ 人や動物を表わす名詞のなかには、上記の *étudiant* 「男子学生」 / *étudiante* 「女子学生」のように、男性を指す名詞の末尾を変えることによって女性を指す名詞を作ることのできるものがある。同じ語が語末の変化によって男性名詞にも女性名詞にも用いられるものは、辞書に 両 (あるいは *n.*) と記されている。

名詞の数 — 単数形 (*singulier*) / 複数形 (*pluriel*)

複数形は、原則として**単数形の末尾に s をつける**。この s は、語末の子音字を発音しないという原則どおり、無音なので、単数形と複数形の発音は変わらない。

名詞の単数形が s, x, z で終わる場合は、複数形でも形が変わらない。また、eau, ou, eu など終わる語の多くは、複数のしるしとして s ではなく x をつける。詳しくは巻末114ページの一覧を参照のこと。

単数形	→	複数形
—	→	— s (原則)
— { s x z	=	— { s x z
— { eau ou eu	→	— { eaux oux eux

◆ TGV や CD, DVD など、連続する単語の頭文字を用いた略語 (=頭字語) は、複数でも同じ形である：
un TGV, des TGV ; un CD, des CD

§2 冠詞 017

[種類と形] フランス語の冠詞は3種類ある。冠詞は名詞の性と数に一致した形のものを用いる。
 (* 下記の表の [] の中は母音の前での形)

(1) 定冠詞 (*article défini*)

	単数	複数
男性	le [l']	les
女性	la [l']	

le musée → les musées 美術館
 l'hôtel → les hôtels ホテル
 la banque → les banques 銀行
 l'école → les écoles 学校

(2) 不定冠詞 (*article indéfini*) 018

	単数	複数
男性	un	des
女性	une	

un musée → des musées
 un hôtel → des hôtels
 une banque → des banques
 une école → des écoles

(3) 部分冠詞 (*article partitif*) 019

	単数
男性	du [de l']
女性	de la [de l']

du vin ワイン de l'argent お金；銀
 du courage 勇気
 de la viande 肉 de l'eau 水
 de la patience 忍耐

[用法] 原則として、名詞にはいずれかの冠詞をつける。冠詞は次のような基準にもとづいて使い分ける。

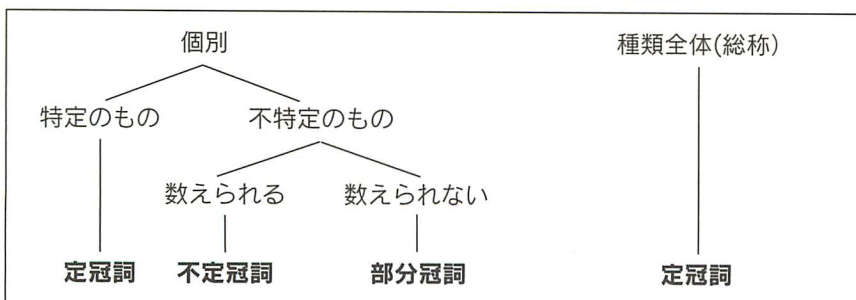
(1) 特定か不特定か

「特定」とは、場面や文脈や常識によって、指している人や物がどれであるかが聞き手にもわかる場合である。多くは、「その…、例の…」と言い表わすことができる。人名と都市名をのぞく固有名詞にも定冠詞をつける。

「不特定」とは、指している人や物が「どの…」であるかを聞き手が知らない場合やどれであるかを問題にしない場合のことをいう。一般に、人や物を初めて話題にするときは不特定である。「ある…」と言い表わすことができ、数えられるものを指す名詞には不定冠詞をつけ、数えられないものを指す名詞には部分冠詞をつける。

(2) 個別か全体か

ある名称で呼ばれるもののいくつかあるいはいくらかの量を問題にする場合のほかに、その名称のもの全体について一般的に述べる場合があり、これを「総称」という。「…というもの」とか「…は総じて」という意味合いである。総称の場合、ふつう、個体(=数えられるもの)を指す名詞は<定冠詞+名詞複数形>で、個体でないもの(=数えられないもの)を指す名詞は<定冠詞+名詞単数形>で表わす。



§3 3つの基本表現 020

次の3つの表現は日常会話でよく用いられる基本表現である。表現を構成している個々の語については改めて学ぶが、いまのところはまとまった言い方として理解しておけばよい。

(* 下記の見出しの...の箇所には一般に冠詞つきの名詞が入る)

(1) Voici ... / Voilà ... (ほら) ...がある[いる], (ほら) ...が見える

人や物に相手の注意を向けさせるときに使う表現。名詞が複数でも *voici, voilà* は変化しない。*voici* は近くのを *voilà* は遠くのを指すが、遠近を区別する必要のない場合は *voilà* を用いる。

Voici le séjour et *voilà la cuisine*.

ここがリビングルームでむこうがキッチンです。

Voilà la tour Eiffel.

ほらエッフェル塔が見えるよ。

(2) C'est ... / Ce sont ... それ[これ, あれ]は...だ

人や物の正体・身元を明らかにするときに使う表現。名詞が単数の場合は *c'est*, 複数の場合は *ce sont* を用いる。問題になっているものを指示するだけであり、遠近による使いわけはない。

Voilà un pont. C'est le pont Mirabeau.

あそこに橋が見えます。あれはミラボー橋です。

Qui est-ce ?

あれは誰ですか？

— *C'est Madame Martin, la mère de Paul*.

— ポールの母のマルタンさんです。

Qu'est-ce que c'est ? Ce sont des crayons ?

それは何ですか？鉛筆ですか？

— *Non, ce sont des stylos*.

— いいえ、ペンです。

- ◆ 人を問う場合は *Qui est-ce ?* と言い、ものを問う場合は *Qu'est-ce que c'est ?* と言う。こうした表現については §28 で学ぶ。
- ◆ 「...ですか」と問う場合、日常会話では、平叙文の語順のまま文末の音程を上げる疑問文がよく用いられる。疑問文の詳細は §16 で学ぶ。

(3) Il y aがある[いる]

人や物が(ある場所に)存在していることを表わす表現。名詞が複数でも *il y a* は変化しない。ふつう *il y a* に後続する名詞には不定冠詞か部分冠詞がつき、場所を示す名詞には定冠詞がつく。

Il y a du lait dans le frigidaire.

冷蔵庫の中にミルクがある。

Il y a des magazines sur la table.

テーブルの上に雑誌が何冊もある。

- ◆ 事態の状況を説明する副詞相当語句(=副詞句)を**状況補語** (*complément circonstanciel*) という。上記の例文の *dans le frigidaire* や *sur la table* は場所を示す状況補語である。様態や時や頻度などを示す状況補語もある。

Exercices (練習)

*各課の練習の解答は全文をノートに書きなさい。

1. 例にならって適切な冠詞を書き入れなさい。

[例] Voilà **un** pont. C'est **le** pont Mirabeau.

- 1) Voilà place. C'est place Vendôme.
- 2) Voilà hôtel. C'est hôtel Ritz.
- 3) Voilà tour. C'est tour Montparnasse.
- 4) Voilà église. C'est église Saint-Sulpice.
- 5) Voilà lycée. C'est lycée Molière.

2. 適切な不定冠詞または部分冠詞を書き入れなさい。

- 1) Qu'est-ce que c'est ? — C'est dictionnaire.
- 2) Qu'est-ce que c'est ? — C'est sel.
- 3) Qu'est-ce que c'est ? — C'est tisane.
- 4) Qui est-ce ? — C'est professeur.
- 5) Qui est-ce ? — Ce sont journalistes.

3. 適切な冠詞を書き入れなさい。

- 1) Il y a café dans cafetière.
- 2) Il y a eau dans carafe.
- 3) Il y a fruits dans corbeille.
- 4) Il y a ordinateur sur bureau. C'est ordinateur de Paul.
- 5) Il y a voiture devant maison. C'est voiture de Monsieur Dupont.

Thème (仏訳)

(*未出の語句はかっこ内に示してある。必要に応じて複数形にし、適切な冠詞をつけること)

- 1) あそこに駅が見えます。あれはサン・ラザール駅 (gare Saint-Lazare) です。
- 2) あれは何ですか？ — あれは美術館です。ロダン美術館 (musée Rodin) です。
- 3) それは誰ですか？俳優 (acteur) ですか？ — いいえ、歌手 (chanteur) です。
- 4) 冷蔵庫の中に肉と野菜 (légume) がある。
- 5) テーブルの上に携帯電話 (portable) がある。それはポールの携帯電話だ。

Remarque

■「複数の種類」を意味する複数形 ■

名詞の複数形は一般に「複数の個体」を指すが、「複数の種類」を指すこともある。fruit「果物」や légume「野菜」は、リンゴやオレンジ、あるいはニンジンやタマネギなど、幾つかの種類のものをまとめて指す語なので、「数種類の」という意味で複数形の fruits, légumes を使うのがふつうである。「ワイン」などの物質名詞も、「複数の種類」を意識すれば複数形になる： des vins de Bordeaux 数種類のボルドーワイン

Leçon 2 動詞 être と avoir

不定詞と活用形 — フランス語の動詞 (*verbe*) は人称・数・時制などによって形を変える。こうした変化を動詞の**活用** (*conjugaison*) といい、変化した形を**活用形**、変化しないもとの形を**不定詞** (*infinitif*) と呼ぶ。不定詞は英文法でいう原形不定詞 (= *to* のつかない不定詞) に相当し、辞書の見出し語として載っている形である。

直説法現在形 — ある事柄について、話し手がそれを事実と判断して述べるときの動詞の形を**直説法** (*indicatif*) という。直説法の**現在形** (*présent*) は、いま現在の事態だけでなく、習慣や性質、近い未来の行為なども表わす(詳しくは §31)。直説法のほかに、命令法や条件法や接続法があるが、それらについて学ぶのはもうすこし後なので、当面は「直説法」を省略して単に「現在形」と呼ぶ。

§4 主語人称代名詞 021

人や物の名前の代わりに用いる語を**人称代名詞** (*pronom personnel*) という。話し手を示すものは1人称、聞き手を示すものは2人称、話し手・聞き手以外の人・物を示すものは3人称である。

文の主語として用いる**主語人称代名詞** (*pronom personnel sujet*) は、ほぼ、英語の人称代名詞の主格に相当する。人称代名詞以外に、名詞なども3人称の主語になる。

単 数			複 数		
	子音の前	母音の前		子音の前	母音の前
1人称	je /ʒə/	j' /ʒ/	1人称	nous /nu/	nous /nu-z/
2人称	tu /ty/	tu /ty/	2人称	vous /vu/	vous /vu-z/
3人称	男性 il /il/	il /i-/	3人称	男性 ils /il/	ils /il-z/
	女性 elle /ɛl/	elle /ɛ-1/		女性 elles /ɛl/	elles /ɛl-z/

[用法] 主語人称代名詞については、英語との次のような違いに注意しよう。

je — 単数1人称の *je* は、英語の *I* と異なり、文頭以外では小文字で書く。ただし母音の前では *j'* と書く (= エリジヨン)。

tu, vous — もともとは単数が *tu* で複数が *vous* だったが、現代のフランス語では、家族・友人など親しい間柄でだけ *tu* を使い、一般には英語の *you* のように相手が一人でも *vous* を用いる (英語も古くは2人称単数 *thou* と複数 *you* の区別があった)。

il, elle — 物を指す英語の *it* に相当する主語人称代名詞はない。フランス語は物を表わす名詞にも文法上の性があるので、それに応じて *il, elle* (または *ils, elles*) を使い分ける。

ils, elles — *elles* は女性 (厳密には女性名詞) だけのグループに用い、男性 (男性名詞) が混ざっていれば *ils* を使う。

§5 動詞 être (022)

[活用]

être

/ɛtr/

je	suis	nous	sommes
tu	es	vous	êtes
il	est	ils	sont
elle	est	elles	sont

/ʒə-sɥi/	/nu-sɔm/
/ty-ɛ/	/vu-zɛt/
/i-lɛ/	/il-sɔ̃/
/ɛ-lɛ/	/ɛl-sɔ̃/

[意味と用法] (023)

être は英語の be 動詞に相当し、基本的には、次のいずれかの構文で用いられる。

(1) 〈主語 + être + 場所の状況補語〉 「～は…にいる [ある]」

Ils sont à la maison. 彼らは家にいる。

(2) 〈主語 + être + 属詞〉 「～は…だ」

Jean est grand. ジャンは背が高い。

Je suis journaliste. 私はジャーナリストです。

◆ 主語人称代名詞と動詞は必ずリエゾンをするが、主語の名詞と動詞のあいだでは決してリエゾンをしな。上記 (2) の最初の例文を参照。

◆ 属詞 (attribut) は英文法でいう補語に相当する。属詞として用いられる語句は、一般に、形容詞か身分・職業などを表わす名詞である。属詞として用いられたこうした名詞には冠詞をつけないことに注意。

§6 主語の属詞 (024)

属詞として用いる形容詞や無冠詞名詞は、主語の性と数に一致した形でなければならない。男性単数形がもとの形、いわば基本形であり、女性形や複数形は、原則として、基本形の末尾に e や s を加えて作る。

	単数	複数
男性	—	—s
女性	—e	—es

[例] petit /pə-ti/ 小さい

petit → petits /pə-ti/ (*s が加わっても発音は変わらない)

↓

petite → petites /pə-tit/ (*e が加わるとその直前の子音字が読まれる)

Il est petit. / Elle est petite.

Ils sont petits. / Elles sont petites.

Je suis étudiant. / Je suis étudiante.

Nous sommes étudiants.

Nous sommes étudiantes.

彼は小さい。 / 彼女は小さい。

彼らは小さい。 / 彼女らは小さい。

私は学生です。(男性) / 私は学生です。(女性)

私たちは学生です。(男性が含まれている)

私たちは学生です。(全員女性)

④ ◆ e や s を連続して綴ることはしないので、末尾が e の語は男性も女性も同じ形 (末尾が é の語は原則どおり変化する)、末尾が s の語は男性の単数と複数が同じ形になる (女性の単数と複数とは形が異なる) :

Il est jeune. = Elle est jeune.

彼 [彼女] は若い。

Ils sont jeunes. = Elles sont jeunes.

彼ら [彼女ら] は若い。

Il est français. = Ils sont français.

彼 [彼ら] はフランス人だ。

(Elle est française. = Elles sont françaises.)

彼女 [彼女ら] はフランス人だ。

◆ 改まった話し方では être の活用形の後でリエゾンをするが、日常会話では、3人称の活用形 (= est, sont) 以外はリエゾンしないのがふつう。ただし、アンシェヌマンをするのは自然である (たとえば, nous sommes の最後の /m/ を後続する母音につなげて発音する)。

§7 動詞 avoir (025)

[活用]

avoir

/a-vwa:r/

j'	ai	nous	avons
tu	as	vous	avez
il	a	ils	ont
elle	a	elles	ont

/ʒe/	/nu-za-võ/
/ty-a/	/vu-za-ve/
/i-la/	/il-zõ/
/ɛ-la/	/ɛl-zõ/

[意味と用法] (026)

avoir は英語の動詞 *have* に相当し、基本的には次の構文で用いられる。

〈主語 + avoir + 直接目的語〉 「～は…を持っている」

Pierre a une moto.

ピエールはバイクを持っている。

M. et M^{me} Dubois ont des enfants.

デュボワ夫妻には子供がいる。

Vous avez du courage.

あなたは勇気がある。

- ◆ 目的語 (*objet*) とは行為の対象を示す語句であり、その語句に前置詞のつかないものを直接目的語 (*objet direct*) という (前置詞のつくものは間接目的語 (*objet indirect*)).

Remarque

■ 〈avoir + 無冠詞名詞〉の慣用句 ■ (027)

日常よく用いられる次のような表現 (多くは人の感覚や感情を表わす) は、元来は直接目的語であった名詞につく冠詞が省略されて慣用句になっている。慣用句中の無冠詞名詞は、形容詞とは異なり、性・数の変化をしない。

avoir chaud [人が] 暑い
 avoir froid [人が] 寒い
 avoir faim 空腹だ
 avoir soif 喉が渇いている
 avoir sommeil 眠い

avoir peur 怖い
 avoir mal 痛い
 avoir honte 恥ずかしい
 avoir raison [人が] 正しい
 avoir tort [人が] 間違っている

J'ai faim. 私はお腹がすいている。

Elle a peur. 彼女は怖がっている。

Exercices

1. 例にならって文を書き換えなさい。冠詞の変化にも注意すること。

[例] *Il y a un vase sur la table.* テーブルの上に(あるひとつの)花瓶がある。
(「テーブルの上に何かがあるか」を伝える文)

Le vase est sur la table. (その)花瓶はテーブルの上にある。
(「花瓶がどこにあるか」を伝える文)

- 1) *Il y a un restaurant devant la gare.*
- 2) *Il y a des chemises dans le placard.*
- 3) *Il y a un parking derrière la banque.*
- 4) *Il y a un bateau sous le pont.*

2. être の活用形を書き入れ、かつこ内の属詞を一致させなさい。

(* 特殊な変化をする語もある。巻末114~115ページの「III 名詞と形容詞の変化」を参照)

[例] *Ils (petit).* → *Ils sont petits.*

- 1) *Le ciel (bleu).*
- 2) *Je (content).* [Je = 女]
- 3) *Ils (sympathique).*
- 4) *Vous..... (pressé) ?* [Vous = 女・単]
- 5) *Nous (japonais).* [Nous = 男]
- 6) *Tu (prêt) ?* [Tu = 女]
- 7) *Jean et Marie (intelligent).*
- 8) *Sylvie (blond) ou (brun) ?*
- 9) *Vous (sportif).* [Vous = 男・複]
- 10) *Elles (assis).*

3. avoir の活用形を書き入れなさい。

(* je → j' のようなエリジヨンがあるので注意しなさい。今後の練習問題についても同様)

- 1) *Je un chien.*
- 2) *Ils une villa.*
- 3) *Tu de l'argent ?*
- 4) *Sophie des frères.*
- 5) *Vous de la chance.*
- 6) *Il du talent.*
- 7) *Je une question.*
- 8) *Nous des ennuis.*

Thème

(* かつこ内に示したフランス語は適宜、適切な形に変えて用いる。日本語では名詞が単数か複数かわからない場合が多いが、フランス語訳では、明らかに複数である場合以外は単数で書いてよい。冠詞の有無や種類にも注意すること)

- 1) 辞書とノート (cahier) は机の上にある。
- 2) あなたは中国人 (chinois) ですか? — いいえ、私は日本人です。 (* 「あなた」, 「私」は女性)
- 3) 君は鉛筆かペンを持っている?
- 4) 彼は病気 (malade) だ。彼は熱 (fièvre) がある。
- 5) 私は疲れて (fatigué) いる。私は眠い (sommeil)。 (* 「私」が男性の場合と女性の場合の両方の文を書く)